

第7期(2009年度)SSCS(Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2009年6月～2010年6月)


■ 団体概要

記入日 2009年3月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
代表者 連絡担当者	代表者:山岡 義典 (運営委員長) 連絡担当者:霜田 美奈・神山 邦子
団体住所等	〒100-0004 住所:東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル 267-B 電話:03-3510-1221 FAX:03-3510-1222 URL:www.civifund.org/ 連絡のつく曜日・時間帯:平日 10時～17時
設立時期	2002年4月設立
団体の活動目的 と 活動内容	市民社会創造ファンド(Civil Society Initiative Fund)は、個人・企業・団体からの多様な寄付や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。 新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展する形で設立され、市民活動助成プログラムや NPO での若者のインターンシップ・プログラム(SSCS)などの企画・運営を行っています。

## ■ 活動カリキュラム

活動名	「インターンが育てるインターンシップ奨励プログラム」の運営
主な活動場所 最寄駅と駅からの距離	上記事務所 東西線大手町駅 B3 番出口よりビルに直結、JR 東京駅丸の内北口から徒歩約 7 分
スケジュール 2009 年 7 月 4、5 日 ＜前期＞	*カリキュラムは、状況や事情により変更となる場合があります。 <b>「事前研修と入校式」</b> ・ インターン開始 ・ オリエンテーション ・ 7 期インターン・受け入れ団体との連絡調整業務(随時) ・ 7 期インターンの活動報告取りまとめと活動奨励金等の会計処理(毎月) ・ SSCS 運営委員会への参加と議事録作成 (年 2 回程度) ・ ( 6 期インターン修了報告書の編集・出版 )
2009 年 11 月頃 ＜後期＞	<b>「中間報告会」</b> ・ 企画・準備・当日運営 ・ ( 7 期新規受け入れ団体訪問インタビュー調査(1 団体・埼玉) ) ・ ( 8 期インターンシップ・プログラムの企画・応募要項作成(1 月頃～) ) ・ ( 8 期インターン公募業務(1 月頃～) )
2009 年 3 月頃	<b>「9 ヵ月インターン修了報告会」</b> ・ 企画・準備・当日運営
2010 年 6 月頃	<b>「修了報告会」</b> 、「事前前研修会・入校式(8 期)」 ・ 企画・準備・当日運営 *( )は、体制的に可能な範囲で実施します。 * 上記以外にも、興味・関心・活動時間数に応じて、ファンドの別プログラムにも関わることができます。また、自主的なインターン学習会や OB・OG との共催行事などの企画・運営もできます。
スーパーバイザー (統括受入担当)	山岡 義典
メンター (日常的受入担当)	霜田 美奈
活動日・ 活動時間について	1 年間活動できる方を希望します。 活動期間中は、週 1 回程度のファンド事務所での活動を基本としますが、毎月、各インターンの活動報告提出締切日(毎月 15 日)に合わせて、提出された報告書をまとめ、奨励金を支払う会計処理など一連の作業を行いますので、その時期には数日まとめて活動ができるといいでしょう(丸 1 日活動する必要はありません)。 また、中間報告会(11 月頃)、修了報告会(3 月、6 月)の前はかなり集中して活動に取り組めることが、学びという意味からも望ましいでしょう。 * また活動期間中は、毎月(月末か月初め)1 回、メンターと会合を持ち、活動の振り返り、予定/目標の検討・確認、プログラムやファンドへの提案を行うことができます。 * 適宜スーパーバイザーと懇談の機会をもちます。

<p>団体を理解するための情報について</p>	<p>市民社会創造ファンドの WEB サイト  『市民社会の創造に向けて－企業を取り組む6つの市民活動助成プログラム－』編集市民社会創造ファンド2008, 5  『NPO 基礎講座＜新版＞』(山岡義典編著:ぎょうせい)  『NPO 実践講座＜新版＞』(山岡義典・雨宮孝子編著:ぎょうせい)  『SSCS インターン修了報告書 1 期～5 期』編集・制作ファンド・インターン:市民社会創造ファンド</p>
<p>インターンに期待すること</p>	<p>活動名のとおり、ファンドで活動するインターンには、SSCS プログラムに参加するすべてのインターンや受け入れ団体と一緒にプログラムを育てていただきたいと思います。これを基本とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前もって全体を把握し、計画的にプログラム運営を実施し、</li> <li>・ 多様な人・団体との連絡・調整をタイムリーに行い、</li> <li>・ 報告会などの企画・運営に興味を持ち、</li> <li>・ NPO の資金源への一定の関心を持っていることを期待します。</li> </ul> <p>* 本の編集に興味のある人には、SSCS インターン報告書の編集に携わってもらいます。  * 活動の実践を通して、全体を見通しじっくり考えかつスピーディに活動する力をつけて欲しいと思います。</p>
<p>団体からのメッセージ</p>	<p>カリキュラムの目的は、インターン自身の持つ、すぐれた若者ならでの感覚で、みずからが参加者としての立場を生かし、他の当事者(インターン)との情報交換を図るなどしながら、このプログラム(SSCS)の各種の企画をじっくり検討したり、行事の準備や当日のコーディネートなどを実施していただくことです。インターンシップ・プログラム全体を、1 人のインターンとして、また事務局として見つめながらの活動は他では味わえない独自のユニークな経験になるでしょう。また、プログラムの推進や内容の向上のための活動を通して、NPO で仕事をするこの意味について体験的に理解していただきたいと思います。</p> <p>プログラム(SSCS)の実施・運営を主な業務としますが、所属している学校とインターンシップ活動との兼ね合いなどから時間の調整が難しい場面がでてくると思います。上手に時間をやりくりして、市民社会創造ファンドが実施する下記の助成プログラムなどにも触れる機会をつくり、NPO における資金支援の方法や課題についても学んでいただきたいと思います。</p> <p>ファンドで実施している助成プログラムと助成関連プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援プログラム」</li> <li>・中央ろうきん助成プログラム「個性が耀く”ひと・まち・くらし”づくり」</li> <li>・「ダイワ SRI ファンド」助成プログラム</li> <li>・Panasonic NPO サポートファンド</li> <li>・花王 コミュニティミュージアム・プログラム ほか</li> </ul> <p>また、他の受け入れ団体で活動する各インターンの活動現場訪問や企画への参加、他のインターンシップ・プログラム関連の企画への積極的な参加など、インターン自らが創り出す学びも応援します！</p>
<p>団体の写真</p>	 <p>インターンみんなでイベント準備      参加自由の合宿にて(修了生と)      ファンドインターン編集の報告書</p>

【団体名:市民社会創造ファンド】

修了生からの  
メッセージ

情報と人のつながり、問題意識の交差という点で、市民社会創造ファンドはネットワーク型の市民セクターにおける主要な“ノード”(結び目)の1つです。

SSCS(市民社会の小さな学校)となっている、広範な分野から山岡さんが選りすぐった先進的NPOと、たった1年間で接点ができることひとつとっても、大きな財産となります。さらに、研修補助費を利用してのNPO全国フォーラムへの参加、助成担当者交流会、ろうきんさんや経済広報センターさんのフォーラムなど、多くの学びと出会いの機会を与えていただきました。とりわけファンドのスタッフとの対話から学んだことは多く、そのつながりは大きな財産です。

中間報告会、修了報告会はインターン同士で自然と報告のできを意識しあい、刺激しあって、大学の授業よりも切磋琢磨の機会となります。交流会も楽しい。プログラムに予定されていない交流もインターン次第で、私たちの期は忘年会、新年会、合宿いろいろやりました。

市民セクター一般のあり方にすでに興味があるという方には、絶対にお勧めのプログラムです。

第1期インターン 富永 さとる(立教大学大学院修士1年・参加当時)

私にとっての学びは「想いを実現させる力」「想像力」「自己認識力」。オーダーメイドな学びを1年間。これはチャンスです！NPOの第一線で活躍されている方々、個性的で面白い仲間に出会える場所だと思います。人生「迷ったらGO!!!」

あなたとお逢いして面白いことを一緒にできることを楽しみにしています。

第2期インターン 斎藤 ちひろ(武蔵野美術大学4年・参加当時)

1つの感動をつくり上げるためには、何百もの積み重ねが欠かせない。SSCS インターンシップの1年間という長期の活動を通じて気づきました。しかし、何百もの積み重ねの中には、何千もの出会い、発見、喜び、時には辛さ、重圧、反省など、様々な物語がぎっしり詰まっています。受動的な生活では得ることができない、かけがえのないこの経験を、ぜひ、この小さな学校で体験し、自分の手で実践してください。

第4期インターン 海沼 武志(立教大学4年・参加当時)

市民社会創造ファンドでのインターンシップはとても贅沢な学びだと思います。

市民社会創造ファンドが行っている様々な助成プログラムへ同行し、助成をする・受ける側に何が求められているかを学んだり、SSCSの事務局として多分野のNPOで活動している同期インターン達を外側から見て、1年間の中での成長を見ることが出来ます。多くを学べる代わりに、その学びをまとめて自分の中に吸収し、アウトプットすることは大変なことではありますが、多岐にわたる学びの中で、多くの作業をこなしつつも、自分の学びたい学びを探していきましょう。

第5期インターン 吉野 高章(法政大学3年・参加当時)

1つ1つ超えてゆく…それがこのインターンシップを経て、1番強く感じていることです。

何もわからないところからスタートして、少しずつ何かを獲得してゆく過程は、自分を見つめる作業であったり、人との関係を築いてゆく作業であったり、時に切羽詰った状況で自分の最大限の力でものごとを把握し、解決する糸口を探る作業であったりすると思います。

学び、成長してゆくということ、それは新しいものごとに挑戦し、失敗し、そこから得る何かを新しい何かに繋げて、繋がりを大きくしてゆくこと。受難を受け入れ、痛みを抱いて、新しい未来を切り開くこと。

インターンで得られるかけがえのない何かを、是非みなさんにも味わっていただければと思います。

第5期インターン 高橋 俊江(法政大学4年・参加当時)